

生徒参加型の校舎建替えプログラムの立案とその実践

～「奈良学園スクールプロジェクト」の 1000 日～

正会員	伊	藤	隆	彦	君
正会員	荒	井	康	昭	君
正会員	福	田	容	明	君
正会員	中	村	正	美	君
正会員	松	村	茂	樹	君
正会員	下	村	悦	隆	君
正会員	木	村	栄	津子	君

「奈良学園スクールプロジェクト」は、校舎建替えの機会を捉え、生徒たちを建築の計画から施工までの 1000 日のプロセスに参加させた建築教育の実践事例である。これを最初に発想したのは、建替えを教育の場として生かしたい、新校舎に愛着を持ってもらいたいと考えた学園側だったという。このことに、まず敬意を表したい。

奈良学園は法隆寺の北の丘陵地に 13ha の敷地を持つ中高一貫校である。学園からの提案を受け、応募者グループは、多様なメンバー構成を生かし、プラン作成編（基本計画）とものづくり編（施工段階）からなるプログラムを立案、実施した。

多彩なセミナー、見学会、体験活動で生徒たちの好奇心を掻き立て、傾斜地での計画案づくりのために考案した“スクールパズル”や、全校生徒対象のニーズ把握調査の実施と分析によって生徒たちに議論が生まれる場づくりに努め、グループごとの計画案を作成するまでがプラン作成編。ものづくり編は計画案の発表に始まり、品質管理の手法の実践や外壁タイル作製と貼りつけ、サインの計画と作製などからなる。

学校での子ども時代からの建築教育は、期待はあるものの、なかなか実現しない。近年はものづくり教育の一環として内装やサイン計画などへの部分的参加はみられるが、本プロジェクトは、その全プロセス、とりわけ計画段階への生徒の参加に特徴がある。生徒案が計画に取り入れられて校舎への愛着と活用を促す結果を生んでいること、また、このプログラムが、生徒の創造力に加えて、コミュニケーションやプレゼンテーションの力の育成に大きな効果があったことについては、学園側の評価も高い。また、活動は 60 名ほどの生徒の熱心な参加で進行したが、全校生徒や家族にニューズレターで発信されて、プロジェクトによる建築への関心、興味、理解が広がったことも評価される点である。

本教育プロジェクトは、建築のいくつものプロセスを、魅力ある充実した教育プログラムとしてつくりあげ、また、その実践を通して、建築教育を学校教育に取り入れることの多面的意義を示すことによって今後の建築教育の発展に大きな貢献をしたものと評価される。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。